

よりそう

Side by Side



第165号

編集責任：三好

編集担当者

白澤 良一さんのお話

2012・3・19(月) 12:25~



(まごころの郷I) (第2回遠野まごころネットスタッフ研修会)

第1部 3・11当日

私の家は、JR大槌駅の近く、今の仮設町役場の近くにありました。津波が来た時(市街地)は、海水が大きな渦を巻く状況でした。プロパンガスの臭いが立ち込めていました。第1波で、駅の近くから今の復興食堂の近くまで300m位流されました。

そこには煙にまかれて焼け死んでしまうので50m程離れた鉄骨2階建ての家に流れ着きました。

間もなく第2波が押し寄せ、次第に水位が上がったので、くるぶしまで来た時、「これは・・・」と思い、カラーボックスの上に座布団を重ねて踏み台にしました。胸まで水位が来た時「もうダメだ」と思い、死を意識しました。しかし、意識は冷静でした。2階の天井を拳で叩き破ろうとしましたがビクともしません。水位が唇ま

で来た時、最後の覚悟を決めました。

ところが、唇の所で、水位上昇は止まり、徐々に水位が下がり、くるぶしの所までになりました。**神仏が、私の背中を押してくれたのでしょうか、私に生きよ、と言ったのでしょうか・・・**

周りには何もありませんでした。ドス黒い水、鉛色の空、現実とは思えない光景でした。まさに地獄図絵を見る思いでした。

まもなく、小槌神社の近くのお店のプロパンガスが爆発、それが引き金になって次々と引火していきました。流れついた車が瞬時に「ポーン」と音を出して爆発、その車が流れ出すと今度は、家が燃え始める。北西の風が吹きつり次々と家が焼けて行きました。そこには、焼け死んでしまうので、20~30m位離れた鉄骨2階建ての家に移りました。そこが、「関旅館」だったということを知りました。炎と煙が足首まで押し寄せてきて、プロパンガスが何時爆発するかもしれない状況の中で、私は、「助けてくれ!」と叫びました。消防士がその声を聞きつけて陸地の方から誘導してくれ、陸地に足をつける事ができました。私の家から100m位離れた所に歩道橋がありました。妻、長男と二男のそれぞれの妻、11ヶ月の孫がその歩道橋の上に逃れました。歩道橋に流された家や車がぶつかりシーソーのようにゆれていました。私が屋根の上で火に囲まれながら流されて行くのを歩道橋の上から見ていたのです。数時間後、中央公民館で妻と再会、抱き合って喜びあいました。

4/4(水) 天気 晴時々雪

気温 20℃(低) 70℃(高)

降水確率 30% ↓ 10%

※月曜・木曜は休刊日になります。

まごころ種 募集

くわしくはHPへ

※4/4(水)ボランティアミーティングはPM5:10~

4/3(火)の宿泊: 105人, 活動: 52人

(P1)